



横野山王原遺跡空中写真(1区)
火山灰の廃棄土坑(溝)は、長さや向き、形など様々なものがあります。現在の畑地の地割りと見比べると、地割りのなかで、作り方が異なっていることが判ります。土地の利用者や作業した地割りの単位によって、長さや向きが異なっているものと考えられます。



①1区 H1号道状遺構(奈良・平安時代)
北東から南西に延びています。幅 1.0～1.5mで、1区で約 60m、2区で約 30mの延長約 90mが確認され、直線的につくられています。堀割状の掘り込みの middle に硬化面が断続的に認められます。遺物の出土がないため、詳細な時期は判りません。



②1区 H2号道状遺構(奈良・平安時代)
幅約 3.0mで、断続的に延長 60mが確認されました。堅く踏み固められた硬化面が3条併走しています。



③1区 Y12号土坑(弥生時代)
確認された地層や覆土の特徴から弥生時代の獲物を捕獲する落とし穴です。平面は 2.1m×1.5mの楕円形に近く、深さは 1.0mです。縄文時代のものより大きいことが特徴で、発見例は多くはありません。



④1区 J15号土坑(縄文時代早期)
獲物を捕獲する落とし穴です。平面は 1.2m×0.6mの長方形に近く、深さは 0.35mです。底面には径 0.1mの小さな穴が複数あり、逆茂木などが設けられていたと考えられます。

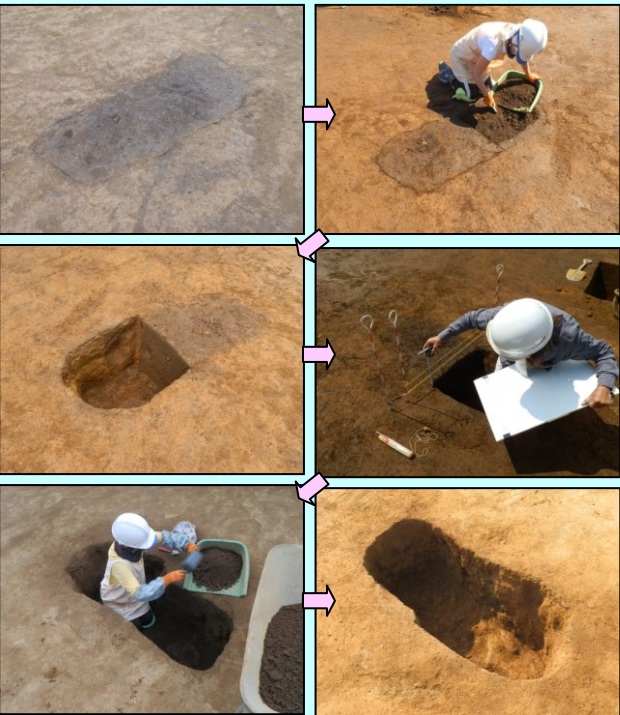


⑤1区 J20号集石(縄文時代早期)
範囲 1.2m×1.0mの浅い掘り込みに拳大の礫が 190 個詰められています。焼けた礫が多いことから、たき火などで礫を熱して、蒸し焼きや石焼きなどの調理施設と考えられています。



2区遺物出土状況(縄文時代早期)
土器・石器類・礫がまとまって出土しています。

遺構の調査手順 1区 J24号土坑
縄文早期の土坑(落とし穴)



遺構を覆う土を覆土(ふくど)と言います。覆土には、土器や石器などの他、炭化物・焼土粒子や骨片など微細なものや脆弱なものが含まれている可能性があり、慎重に掘り進めます。底面施設の有無を確認して、掘削作業を完了します。

